

大丈夫よ！ お母さん！

教育コーディネーター 中西美沙子

（今回のテーマ）
季節を待つ

冬の透明な光が、あたり一面に降りそそいでいます。冬枯れの木立に目を凝らすと、春の到来を予感させる小さな芽が見えます。悩みを抱えた若いお母さんがいました。同世代のお母さんたちと、感じ方や考えを上手く合わせられないと、悩んでいました。

私は時々「悩みは小さな幸福のプレゼント」と考え生きています。辛いことが起こるのは避けようのないものです。そんな時にどのようにしてやり過ごすかで、悩みも痛みも、少しですが消えることがあります。悩みは「人間成長の糧（小さな幸福）」だと、私は考えるようにしています。

彼女は起こっている現実をこまかに話し出しました。「平凡で普通の生活を心がけているのですが、周りのお母さんたちはとても華やかで、私はどこか浮いてしまう気がするのです」。彼女は自分のことを、他のお母さんと比べ劣っていると思いついて入るようです。「地味」と「華やかさ」

は、対極にあるものではありません。彼女が気にしていることは、ブランドや高級な車、それと立派な住宅に住んでいる人への気おくれだと、私は思いました。華やかな生活を目の当たりにして、自分の心までが劣っていると感じていたのです。

言葉で心を解くことはとても難しいものです。さまざまに彼女の言葉を聞くのですが、彼女は固まった感情をなかなか柔らかくにすることができないようです。

生まれる悩みに対する処方箋があるとしたら、「待つこと」かも知れません。哲学者の鷗田清一さんに『「待つ」ということ』という本があります。悩みを持った人の言葉をじっと聞くこと。そのようにしていると、自然に、自分の方で絡んだ悩みの糸が解けると、鷗田さんは書いています。

今の時代は、「待つ」ことが許されないようになっています。ゆっくりと過ぎてゆく時間を、じつくりと考え行動することが難しいようです。「待ち遠しい」「待ち伏せ」「待

ちぼうけ」「待てど暮らせど」。それらの日本語は死語になりつつあるのでしようか。私が主宰している画廊と文章教室の庭に、秋の終り頃、ドングリの実が落ちます。大きなミズナラの、その木の実を見て、子どもたちが大騒ぎします。2歳になる孫も、ドングリが大好き。ちいさな指でひとつひとつ集め、おうちの中で転がして、大笑いしながら遊んでいます。その情景を見て「待つこと」の大切さを改めて思います。

小さな子どもは、何に対しても興味を持ち、繰り返し「これ、なに？」と声をかけます。言葉の意味や答えよりも、聞いてくれる人がいることで安心するのでしょう。そこには「聞いてくれる人」「じつと待っている人」がいます。人間関係や子育ての悩みも、そのことに気付けば、溶けていくのではないのでしょうか。

人は悩みながら生きます。その悩みの多くは、他者との関係で起こります。今は「競うこと」を中心にした社会。よほど心を強くしないと、自分の子どもに「競うこと」を強いるようになります。

よそのお母さんと自分を比べる。子ども同士を比べる。生活の仕方を比べる。そこに悩みが生まれます。時々、相手かまわず喋り続けるお母さんがいます。そこにも「比べること」の不安とプレッシャーを感じてなりません。人の言葉を聞くというのは、辛抱強くないとできません。その力があつてこそ、人と人との絆が結べると感じるので。

私は冬の季節が好きです。それはやがてくる華やきの時を、じつと「待つこと」の期待が、そこにあるからかもしれません。



Profile

教育コーディネーター
中西美沙子

執筆・講演活動のかたわら、様々な部門の文化事業を展開する「(株)クレアシオン」の代表。文章教室「スコーレ」画廊「キューブブルー」「建築プロデュースすまい」「食彩いわさか」「ときわ薬局」など。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子

検索

ピアノシモでね
中西美沙子 著

著書の「ピアノシモでね」（東京書籍）は、中日新聞に連載された人気コラム「つかまえて！こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。（税込1,500円）
※お求めは浜松市内の谷島屋で。